

平成 26 年度高大連携・学問探検ゼミの成果報告会を開催しました

2015 年 1 月 30 日に「教育 G P」の中核事業である「学問探検ゼミ（大学 2 年生向けの中級演習）」の宮町・佐藤ゼミの成果報告会が大分大学経済学部 202 号教室で行われました。当日は大分市内の高校生 263 名、宮町・佐藤ゼミに所属する経済学部 2 年生 8 名、高大の教員 20 名、合計 291 名が参加しました。今年度の「学問探検ゼミ」は、大分鶴崎・大分南・大分^{おきのだい}雄城台・大分・大分商業の各高校から過去最多の 2 年生 24 名、本学経済学部 2 年の学生 77 名が 5 つのゼミ（青野ゼミ、宇野ゼミ、仲本ゼミ、高見、宮町・佐藤ゼミ）に分かれて開講しました。宮町・佐藤ゼミには、高校生 8 名、本学経済学部生 10 名が参加し、本学の教員 2 名が指導に当たりました。

この事業は「学びは高きに流れる」ことを基本理念として、高大それぞれの立場から連携教育を発展的に推進しようとする取組です。大分県教育委員会と本学は、平成 19 年 7 月に高大連携協力協定を結び、平成 20 年度以降、各高校から生徒を迎え「学問探検ゼミ」を実施してきました。「学問探検ゼミ」は、高校生が“学問の入口”を大学生と一緒に学ぶことで大学生のリーダーシップの向上、高校生が大学の授業を知ることや進学意識の向上や課題を見据えた進路選択に役立つようにと、高校と本学経済学部との高大連携事業として位置づけられています。

宮町・佐藤ゼミでは、興味関心のある社会科学系学問分野を各グループで設定し、具体的な事例を調査研究しました。テーマの設定や文献調査の仕方、問題意識、論文のまとめ方、高校生の指導、発表用スライドの作成の仕方など、悪戦苦闘の連続でした。当日は、4 グループの発表が行われました。発表テーマは「九州の祭り文化と経済効果—地域学の観点から—」、「コンビニはなぜ強いのか—経営戦術論の視点から—」、「携帯電話業界のマーケティング戦略—iPhone をめぐる 3 社の対応—」、「スポーツ経営学を探る—プロ野球と J リーグの違いに注目して—」で、いずれも高校生や大学生の周りの事象を見つめ興味や疑問を持ったことを、各学問分野からアプローチした内容でした。高校生と大学生の班ごとに学問分野と研究トピックを決めて、前半は資料収集とレポート作成、後半は報告会に向けた準備を行いました。発表後、来場した高校生から「経済効果の表し方」や「地域による通信速度の違い」等の質問が出され高校生と大学生の質疑応答が行われ会場は熱気に包まれました。

終わりに宮町良広教授から受講高校生に修了証書が授与され、佐藤裕哲特任教授が本ゼミの意義と報告会の講評を行い盛況のうちに閉会となりました。

受講生アンケートから、「授業に意欲的に取り組んだ」、「高大の生徒・学生と一緒に良かった」、「授業の内容は興味持てる内容であった」、「総合的に判断して授業は良かった」と高校生・大学生とも充実したゼミであったようです。「高校生と話し合う中で自分の理解度の確認になり、教え方や発表の仕方が向上した」（大学生）、「毎回、新鮮な体験ができ大学で経済学を学びたいという気持ちが明確になった」（高校生）、来場高校生のアンケートから、「発表内容は興味を持てる」（90%）などの感想が得られました。

